令和４年度白石市総合計画・総合戦略推進委員会　提案・意見等

分野目標１　人・文化を育む （教育・生涯学習・歴史・文化など）
・白石で子育てしたいと思える環境が必要。産婦人科の整備はもちろんのこと、子育て世代としては、学校教育が気になるところである。昨年度から英語や漢字など各種検定の検定料の半額を市が負担する事業や幼稚園・小学校で暗唱読本を通して多くの作品に触れる機会が増えたことはとても良いと思う。このような取り組みをもっと充実させれば子どもたちの興味や関心を広げられると良い。 ・家を建てる場所を少しでも便利なところに求める傾向があるようだが、白石で何か突出して優れた面があれば、転出は思い留まってくれるのではないかと思う。子育て世代はとくに教育に関しては敏感で何よりも優先するので、学校環境の整備、教育環境（とくに ICT）の整備を推進して頂きたい。
・「学校が楽しい」という肯定的な意識が聞けて安心した。学力も同じくらい大事だが、子どもたちの健康的な心を大事にできたらいいと思う。子どもたちの声にどれくらい真剣に耳を傾けているかを考えたい。
・誰もが一緒に学べる、学び直せる場所創りが必要。寛容な学びの場所創りを考えたい。
分野目標２　みんなで地域づくりを進める （地域づくり・持続可能な行財政運営など）
・「まちづくり協議会」の存在が大きいように感じるが、その割に予算規模が大きくないのではないか。
・「協働のまちづくりの推進」に関して、市まちづくり推進課の主導により２地区で地区計画を策定し、他の地区においても策定に向けた取り組みを進めていることは、地域自治の活性化という点から評価に値すると思う。 ・白石地区には、市内の約６割の世帯が居住しており、住宅密集地や新興住宅が多いなど、他の地域との環境の違いが多々ある。まちづくり協議会はない、これまで、地域自治は各自治会が主体となり自主的な運営を続けており、自治会間の連絡調整は自治会連合会白石支部が担ってきた。白石支部の自治会の多くは、少子高齢化に加え、役員のなり手不足、財源の減少等から年々運営が厳しくなってきており、将来の自治会運営に対する行政等の支援の必要性を強く感じている。 ・自治会連合会白石支部の執行部も自治会長を兼ねながらの業務運営のため、事務量が多く、地区計画策定業務は相当の負担増となることなどから、白石地区におけるまちづくり協議会的組織は必要と思っているが、組織設立には解決すべき課題が多くみられる。自治会運営支援、地域の安全・安心、生活環境の向上を図れるような機能を持つ組織（まちづくり協議会）をつくるためにも、自治会連合会

白石支部及び加入自治会と市まちづくり推進課との連携・協議を更に深めていく必要がある。
・「協働のまちづくりの推進」では、各地区にまちづくり宣言が設けられ、活動の目的が分かりやすく明確になっていることはとても良い状況だと思うが、その目標を実現するための地区計画は現在２地区のみという事で、今後出来るだけ早い時期に地区計画が立てられることが望ましいと思う。しかし、ただ計画を立てるだけでは、意味のないものになってしまうので、地域自治の必要性について、しっかりと学ぶ場を設けていくことも必要だと考える。 ・地域の課題を把握し、現状に合った課題解決に向けた事業が進められている地域がある一方で、未だ、課題は行政に訴え解決しようとしたり、地域の現状や将来推移を直視できていない地域があったり、活動に差があると感じている。そのため行政の支援として、どの地域も平等にサービスを提供することは、難しくなってきていると感じている。職員の仕事が地域の幸せの限界になってしまう事のないようにと望む。
・人口減少は不可避であり、これからは「少なくても機能する地域づくり」を考えていかなくてはならないのではないか。市の職員数も減少していく中で、これまで通りのやり方は通用しない。横の繋がりを強化し、情報を共有。住民との話し合いを大切にして、それぞれの強みを活かす、協働のまちづくりが必要だと思う。
・“みんなで”地域づくりを行うことの難しさを感じるが、既にあるコミュニティのなかで地域づくりをするのはハードルが低く、やりやすいと思う。コロナ禍での制限が大変ではあるが、コミュニティ間のやりとりをオンラインに切り替えるなどで対応できると思う。
・共通言語を創ること。
・ふるさと納税寄附金については、地域の特徴を活かしながら、一層の掘り起こしができるのではないか。
・単なる返礼品競争ではなく、プロモーションツールとして、税収だけでなく産業振興の視点で。
分野目標３　暮らしをともに支え合う （子育て支援・健康・医療・福祉など）
・年々出生数が減少している中、安心して出産できる体制作りが喫緊の課題だと思う。
・市民アンケートを見ても「子育て環境」「子どもを生みやすい環境」への期待、希望が圧倒的にあるということは、逆にこの分野が不足しているということ。市の最重要課題であることは間違いない。刈田病院の件もあるが、市の方針を明確に打ち出す必要がある。ただ、気を付けるべきは産科の設置にとどまらず、子育て

世帯にいかに利便性を感じてもらえるかまでが範囲と思われる。以前 TV で見たが、流山市では「JR 駅に子どもステーションを設置し、親はそこに子供を連れていき、保育所・幼稚園が迎えに行く」サービスを提供している。また、保育士に独自に手当てを支給して保育士の確保をしている。子どもだけに目を向けるのではなく、親、関係者・業界も含めた仕組みが必要と思われる。
・成果はこれからと思われるが、研究・準備を進めるべき時期と思う。

・まちづくりに関するアンケートで白石市に「住み続けたくない」と回答した人の理由に「医療・福祉サービスが充実していないから」が多いことと、市内の病院で出産できない不安と不満など産婦人科の整備を求める意見が多い。ますます、出生者数が低下する原因につながると思う。

・定住促進のために、市では各種の戦略を掲げ推進していると思うが、若い人の定住・移住を希望する条件の多くが、地域医療、出産、教育、働く場、安心・安全に関することであり、特に地域医療、出産が多くを占めていることを考えると、刈田綜合病院問題の長期化に伴うイメージダウンは、定住・移住促進にとって大きなマイナス要因となっている。ようやく公設民営化を可能とする条例案が可決し、一歩前進したが、白石市のイメージ回復のためにも早期の改善を図る必要がある。若い人が白石市に住んでみたい、住み続けたいと思えるように医療環境等の整備を最優先し（現在しているとは思うが）、環境が改善したことを広くＰＲすることが重要だと思う。

分野目標４　安全・安心を守る
（防災・減災・交通安全・防犯など）

・事後対応力だけでなく、事前対応がより重要。行政だけでなく、民間も含めて、開発計画時に防災･減災を意識することが重要。

分野目標５　活力・賑わいを創る
（農林・商工・雇用・観光・交流・移住・定住など）

・分野目標 5 は達成度が 31.3%と、分野目標 4「安全・安心を守る」に次いで 2 番目に低い値となっている。コロナ禍により観光振興、交流活動等が推進できなかったものと思われるが、コロナ感染症の流行は今後も続くことが懸念され、令和 4 年度後半、令和 5 年度においてはウィズコロナにおける観光、交流を前提とした取り組みを立案・実行していくことが課題になると思う。難しい課題ではあるが、コロナ禍での取り組み推進を期待している。

・実家が白石、または、職場が白石であるにもかかわらず、新築で家を建てるタイミングで、他の市町村、特に大河原町で住宅を建てて白石から転出した知人を何人か見てきた。そのような取りこぼしは大変もったいなく感じる。現実的に白石に限らず、よほど革新的なことがおきない限り、人口が増える要素はないので、いかに取りこぼしを少なくするかが今のところ重要と思う。

・白石市が持つ潜在的魅力を引き出し、磨きながら、新しいものとの融合を図ることは必須だと思うが、外の目を使わないと気付かないと思われる。一方で、地元がその宝物を十分に理解しておかなければならない。外の目が必ずしも正しいわけではない。また、地元の十分な理解、研究が気づきを生むかもしれない。極端な例だが、「一度外に出た女性が地元に戻ってきて起業する成功例」をよく聞く。“外を知っている”＋“女性パワー”が地域を元気にできるのではないか。 ・今、地域づくりのゴールは移住定住者を増やすことだと思う。思い切った活動をしなければ競争に負ける。あらゆる施策が移住定住につながるものと考えるべきである。
・スマート IC 整備事業は単なる車輌の出口という感覚ではなく広い視野で検討された計画に見える。成功を期待したい。ただ、企業誘致は難題。市長のトップセールスの前の事前交渉が大事かと思う。 ・観光コンテンツ強化、体制整備、地域内外の連携も大事。農林業、卸・飲食業、スポーツ、ボランティア・・・、相当に広い分野の人たちを結び付けなければ顧客満足と地域活性化の役に立たないと思う。“観光”を広い視野で見つめ語る場を持ったらどうか。
・スマート IC 周辺整備について、需要予測を念入りに調査の上、検討する必要がある。また、産学官連携しながら、ＤＸを活用したまち作りも一案であると思う。
・スマート IC 周辺整備について、対外的な施設としての施設だけではなく。市内在住の人もコンスタントに活用できる施設。市内在住の人が「よく行くよ」と言える施設を望む。 ・物質的な先進的さの【光】よりも、コミュニティといった土着的な【光】でまた観に来たい町。観光の創出。建物だけではなく白石市に住んでいる人が日常に使え、人が風景になるような、空間の創り。長者原インター付近に行くが、降りてから付近に魅力的なものがなく、結局古川インターを使っている。
・働く場所の創出が喫緊の課題である。企業誘致もしくはスタートアップ企業を生み育てる環境整備が必要と考える。企業誘致にあたっては、現在、省人化が進んでおり、工場で働く人数がどれくらい増えるのかが重要になると思う。
・これからは、ＥＶ・半導体産業が生活の軸になることが想定される。特に、半導体産業については、生活必需品、安全保障上必要であるため重要であり、水が豊富な白石地域にとって地の利があり、誘致が叶えば推進の後押しになると思う。
・アフターコロナを見据え、インバウンド需要を効果的に取り込むための事前準備が必要である。
・人口減少は、雇用があまりないことも一因。
・転入は「子育てがしやすい」「働く場、事業の機会」の２点が大きな理由となるか

と思う。転入政策は自治体間競争をあおるものになってしまう危険性があるが、「働く場、事業の機会」は、広く企業や起業者を集めることができるので、積極的に取り組みやすいのではないか。

a)起業の視点

「白石市が魅力的な起業の場になっているか」という点で今後、工夫が必要。

・起業は市民サービス型、来訪者サービス型等がある。来訪者サービス型に着目し、観光業、飲食業、食品加工業等を促進するなら、白石市自体が観光地としての「売」を明確にしていくことが必要。白石市は、自然なのか、歴史なのか、分かりにくい。歴史を売りにする場合、街なかやお城周辺の景観整備を徹底することで、その環境を活用して商売をしようとする方々が集まることが期待される。

b)企業誘致の視点

・企業誘致でより白石市の魅力を高めていくためには、研究関連または企画部門をもった加工業等が良いのではないか。大学や企業との連携が必要で難しいことは承知の上での提案とさせて頂く。

・例えば、検討中の新工業団地には自然に近い立地を生かしアウトドアスポーツ関連の加工工場と体験施設・研究施設の誘致などはいかがか。

・単に進出企業募集を行った場合、物流倉庫、加工組立工場等が中心となり、無機質な工場空間が出来上がってしまう。さらに、単年契約の社員が増えても、真の雇用拡大にはつながらないことが懸念される。

・誘致する工場・企業が起爆剤となって他の事業者の進出につながる、または、他の産業の刺激になるような分野を選んで募集することはいかがか。設計・施工中にサウンディング調査などを行い、戦略的に誘致したい事業分野を検討していくのが良いかと思われる。

・スマート IC 関連について、ターゲットに合わせた観光戦略を。市内、県内、首都圏、関西等で周遊ルートも異なる。広域の場合、白石単独では正直厳しいので、例えば、対仙台なら蔵王、七ヶ宿、丸森等との連携、対首都圏であれば米沢、山形、福島との連携など、物語も考えての展開が望まれる。商品展開についても同様。

・企業誘致に関して、雇用や税収を考えれば工業誘致が第一に考えられるが、首都圏から見たら現 IC との差はあまりないことから、IC 以外の優位性をどう打ち出せるかがポイント。工業誘致が厳しいとなれば、流通拠点としての活用もあるのでは。単なる結節点としてだけでなく、加工・組み合わせ機能も持つ拠点という考え方もあり得る。

・定住の増加や関係人口については、空き店舗に他の地域の人が来たくなるような新しいビジネスが数多く生まれること（空き店舗の流動化と起業家の育成）、歩いて楽しいまち、そこに住んでいる住民が幸せであるという事が必要。また、市

内にたくさんある空き家を再生し、地域の伝統文化を活かした、地域全体を一つに捉えデザインするアルベルゴ・ディフーゾを目指すという事も一つの案かと思う。 ※アルベルゴ・ディフーゾ 地域に散らばっている空き家を活用し、建物単体ではなく地域一帯を点在型ホテルとするイタリア発祥の取り組み。まち全体をホテルと見立て、レセプション、宿舎、レストラン等がまち中に広がることで、地域に暮らすような滞在スタイル。その土地に根付く歴史、文化、人の営みを、観光資源化する点がポイントで、地域の「水平的発展」を実現する観光地域づくりのモデルとして注目されている。アルベルゴはイタリア語で「宿」、ディフーゾは「分散」。
・兼業農家の推進。 ・空き家募集。マッチング。重層的、広域連携。
分野目標６　まちの未来を描く （環境・上下水道・道路・公共交通・公園など）
・白石蔵王駅には、駐輪場がなく、通勤・通学者にとって不便である。
・公共交通も意識したまちのリニューアル。移住促進や賑わいづくり、持続可能なコミュニティを考えると、新規開発を含めたまちのリニューアルが必要になるが、その際には道路整備だけでなく、公共交通をどうするのかを一緒に考えていく必要がある。開発ありきで後から公共交通を考えたのでは絶対に上手くいかない。

シティプロモーションの推進について
・白石市の発信は遠慮がちにみえる、もう少し大胆でもよいのではという声も聞く。若い人、学生の情報発信力には若い人だけでなく多くの人を引き付ける力がある。学生、民間の発信力の更なる活用が必要ではないか。 ・白石市には素晴らしい資源が数多くあります。スマート IC 周辺が整備されれば更に魅力が加わる。白石市のブランド力向上 PR のチャンスだと思う。
・具体的にどんな活力・賑わいを目指すのか、いろんな立場の人と話し合って方向性を決めて、優先順位を決められたらいいと思う。 ・シティプロモーションは、どのターゲットに何を伝えたいか、次にどんな行動を促したいか明確にすると、発信内容（ターゲットにささる言葉選びやデザイン）、手段（SNS の種類など）が選択できると思う。 ・いろんな考えや生き方があるという多様性を認め合う人が多くいればいるほど、その町の暮らしやすさや生きやすさに繋がると思う。
・シティプロモーションは、【こんな町です】と簡潔に分かるものが良い。

・ホームページの第六次白石市総合計画の公開について、他市は簡潔に【こんなことをします】ということが書かれており、観光、移住目的の人の心を掴む。対外的にも良いが、市民に浸透しやすいように、挿し絵を使うなどして見たくなる工夫を凝らしているように感じる。また、共通言語を作るなどして。子どもからお年寄りまで、浸透する工夫の必要性を感じる。本市は、PDF を開かないと見られないのが残念。
新型コロナウイルス対策、その他白石市の活性化について
・新型コロナと地震のダブルパンチの中でもご尽力いただいていることに敬意。新型コロナというよりも、新型コロナがこれまでを浮き彫りにしている所もあるかと思う。
・重層的な解決が必要になると感じている。 ・安心感が人を創り、その人が人を呼ぶと思う。
・シビックプライドは、全ての根底にあるべき最重要事項。歴史にも根ざした白石に対するプライドだけでなく、職業、生活に対するプライドも。ただし、多様性、寛容性や可変性も重要。